

<p>【技術の名称】 Shimz-SCJ 工法 ー鉄骨造の柱梁接合および梁端接合にコンクリート系材料を充填して行う工法ー (改定)</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第 02-23 号改 性能証明発効日：2005 年 9 月 6 日</p> <p>【取得者】 清水建設株式会社</p>
--	--

【技術の概要】
 本技術は、下記の 2 方式による鉄骨造の柱梁接合および梁端接合にコンクリート系材料を充填して行う工法である。この工法に用いる鉄骨造の柱は、中空鋼管柱ならびにコンクリート充填鋼管(CFT)柱としている。

(1) リングパネル方式柱梁接合
 この方式の柱梁接合は、梁端部ブラケットを溶接接合した外鋼管内に、柱本体である内鋼管を現場で挿入した後、外鋼管と内鋼管との隙間に無収縮モルタルを充填して行われる。ここで、内鋼管は、上下階で連続させるか、または上下階で分離して、外鋼管内に挿入することにしている。

(2) U形ブラケット方式梁端接合
 この方式の梁端接合は、鉄骨造の柱に溶接接合したU形ブラケットに、現場でH形鋼梁を乗せ掛けた後、スラブ筋を配置するとともに、U形ブラケットとH形鋼梁との隙間に無収縮コンクリートまたは無収縮モルタルを充填して行われる。

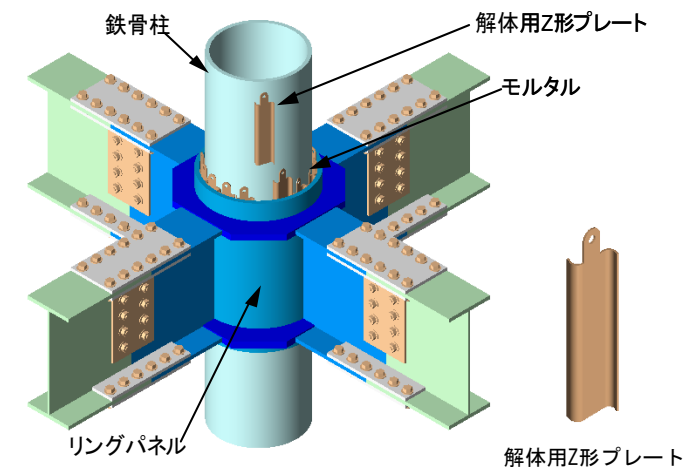
本技術は、2003年3月4日に(財)日本建築総合試験所 建築技術性能証明 第 02-23 号として性能証明を受けた内容に変更を加えたものであり、2005年9月6日付けの改定では、(1)項のリングパネル方式柱梁接合に、内鋼管を上下階で分離し、外鋼管内に挿入した後、絶縁プレートと称する薄鋼板を配置して、無収縮モルタルを充填し、解体時に充填モルタル撤去を容易にしたリユース型リングパネル方式を追加している。

【技術開発の趣旨】
 本技術は、設計で要求される構造性能を満足し、かつ、現場での溶接作業を極力減らすと

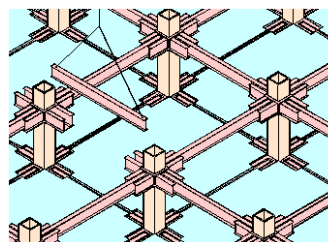
もに、鉄骨建て方時の施工誤差の吸収を容易にして作業効率を向上させることを意図して開発したものである。

【性能証明の内容】
 本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者提案の工法によって構築されるリユース型を含むリングパネル方式柱梁接合部ならびにU形ブラケット方式梁端接合部は、それぞれ本工法設計指針で提示している安全限界耐力を有し、かつ、使用限界時に使用時の性能に支障をきたす恐れのある損傷を起こさないと判断され、また、損傷限界時に構造性能を損なう恐れのある損傷を起こさないと判断される。



リユース型リングパネル方式
 (2005年9月取得技術)
 柱とリングパネルはモルタルを充填することで剛接合される。充填部には、柱と梁を無傷で解体できるように、Z形のプレート(絶縁プレート)を挿入しておく。解体時には、このプレートを引き抜くことにより柱とリングパネルの間に空隙ができるので、容易に解体が行える。



U形ブラケット方式
梁端接合
 (2003年3月取得技術)

【本技術の問合せ先】
 清水建設株式会社 担当者：石井 大吾
 〒135-8530 東京都江東区越中島 3-4-17

E-mail：daigo_ishii@shimz.co.jp
 TEL：03-3820-6646 FAX：03-3820-5955